

イスラエルのための祈り
ウリヤ兄が遺したもの その2
2024／10／28恵比寿マンデー



エイタン・カシュタン兄の働き



イスラエルにインパクトを与えたウリヤ・バイエル兄



* 祖父母の代から
イスラエル在住のド
イツ人クリスチャン。
* ユダヤ人ではな
いし、イスラエルの
市民権も持っていな
い。

* 自らの意志でイス
ラエルを守るため、
IDFに入隊した二十
歳の青年。
(24・7・1マンデー)

エイタン・カシュタン兄のウリヤ君に捧げる歌

2023年12月14日 IDF所属の兵士ウリヤが 戦場で重傷を負い、ベエルシェバの病院のICUで治療を受けているとの知らせが届いた。翌朝、私たちは病院に到着した。ウリヤの父親ギデオンと抱き合った時 彼の腕はいつものように力強かったが、わずかに震えていた。弱々しくも自信に満ちた声で、彼は私の耳元でこうささやいた。「神様のなさることに間違いは無い。ただ私たちには いつも神様のことを理解できるわけではない。」ギデオンは1972年、2歳のときに両親とイスラエルに移住してきた。一家はイスラエル、とりわけイスラエルの神を愛する非ユダヤ系ドイツ人である。イスラエルへの移住後 ホロコーストを生き抜いた人々のための施設を運営を始めた。ギデオンと妻のネリーには5人の子供がいる。戦争が始まると、5人の子供のうち4人が国を守るために出征した。一番下の子はまだ高校生だ。ネリーとギデオンは、神が子供たちを守り、無事に家に帰らせてくださるよう祈った。

そんな中 ウリヤが重傷を負ったとの辛い電話連絡が入った。病院で3日間頑張ったものの傷のため命を落とした。彼の埋葬の日、イスラエルを自分の故郷としたドイツ出身の女性ネリーが弔辞を述べ、イスラエルの地で 母親であることの意味を深みのあることばで語った。彼女のイスラエル国民とイスラエルの土地への愛、シオニストとしての価値観、そしてイスラエルの神への揺るぎない希望は、私たちに悲しみと希望の入り混じった深い印象を残した。この感覚は、あの恐ろしい日以来、ウリヤのご遺族と接したすべての人が共有している。痛みは 色あせることない。しかし希望はその力強さを失っていない。ネリー、ギデオン、そしてご遺族の純粹で揺るぎない信念は、すべての人の模範である。涙にあふれながらも 大きく見開いた目で現実を見つめ、神は善なるお方であり、決して間違いをなさらないという信念を手放さない。ただ だからと言って いつも神様のことを理解出来る訳ではない。このような形で、バイエル一家 全員が 愛を与え、貢献し、多くの人々に祝福を与え続けている。

この曲は、ウリヤ・バイエル一家にインスピレーションを受けて書かれた。歌詞は、彼らが語ったこと、そして かすかなささやき声さえも発せられないときに、彼らの目が表現したことである。この曲はウリヤ・バイエルのことを歌っているわけではないが、彼の思い出は すべての言葉と音符の中につままっている。だから この曲をウリヤとウリヤのご家族に捧げます。このプロジェクトに関わったすべての人たち、すべてのプロフェッショナルに感謝したい。ネリー、ギデオン、そしてご遺族の皆さん、特別なお人柄を垣間見ることができ、その大きな希望から力を得ることができたことに感謝します。神様、あなたの民への揺るぎない真実のゆえに あなたに感謝します。

エイタン カシュタン

<https://youtu.be/p5hf59kCYw0?si=ZbCOmUNSmK0ltkXC>

```
<iframe width="560" height="315"  
src="https://www.youtube.com/embed/p5hf59kCYw0?si=ZbCOmUNSmK0ltkXC"  
title="YouTube video player" frameborder="0" allow="accelerometer; autoplay;  
clipboard-write; encrypted-media; gyroscope; picture-in-picture; web-share"  
referrerpolicy="strict-origin-when-cross-origin" allowfullscreen></iframe>
```

祈りの課題

* エイタン・カシュタン兄のこの歌が イスラエルの多くの方々の心に慰めをあたえるため 用いられますように。

* 戦争のため 物資不足に陥った人々に 物資を届けるエイタン・カシュタン兄を始めとする支援団体の働きが 守られますように。

* 人質全員の即時解放が 一刻も早く実現しますように。